研究ノート

留学生と日本文化

孫　　在　奉

Foreign Students and Japanese Culture

Jaebong　SON

一

財団法人日本国際教育協会が2002.12に実施した〈元日本留学生らの意見調査〉によると，留学生活でよかった点は，①日本人の友だちができた（72.1%），②地域社会と交流ができた（34.7%）である。残念だった点は，①宿舎を探すのに苦労した（33.3%），②日常生活で偏見ある対応を受けた（21.9%）である。また，日本への留学目的としては日本語，日本文化を勉強したかったが28.8%であった。この度は韓国の学生のことを主に調べたものであるが，外国の学生が日本に来て何を求めているのかわかる。

彼らが留学生活を終え振り返って見る時に上記のような印象を持つ結果となったのは，日本に来て初めて接した日本文化へのショックがそのまま反映されたものと考える。これだけは日本独特な文化であるといわれるような分野は，彼らも自分の国で何らかの形で勉強しているはずであるが，日本で現実に接する普通の常識的なものは，彼らの〈常識〉を超え，どうにも理解しにくい抵抗が大きいのではないだろうか。歩き方，食べるもの・食べ方，遊ぶもの，風呂への入り方，感情の表現等々，どれひとつとってもショックでないものはないとさえ想像できる。

もっと具体的に例示すれば，道路に出て歩くにも右側を歩かねばならない。涙を流しながらでもわさびをつけて刺身を食べねばならない。うどんをフルフル音を出しながら吸い込まないといけない。午後10時以降おしゃべりをしたら隣のおじさんから苦情が出て学校の先生に呼び出され注意を受ける。始末をきれいにするつもりでお風呂のお湯を栓を抜いて全部流してしまうこと。どれひとつ自分の国では当たり前の生活をすればいいはずだが，そうした〈常識〉は日本では通じない。人間は自分が思っている常識が通じないと，いらいらして腹が立つ。つまりストレスをいっぱいに受けてしまう。

外国人留学生が望むものは，自分の国とは違う日本の日常生活に早く慣れて，日本人と同和していくことにある。そのためには日本での生活を楽しみながら日本の生活文化を一つ一つ比較して身につけていく方法が一番近道であると筆者は思う。

以上の分析・視点をもとに，以下住宅構造の違いで生じる生活習慣の異同，気候，風土による食べ物及び着る物の相違，歴史と習慣の違いで起こる言葉表現などを韓国・日本の２つのケースを比較して述べたい。

1．住まい

建物は外観は同じに見えても，国によって空間の機能と間取りは違う。

韓国の家屋構造は南方式と北方式が共存している。南方式の代表的なものとしてはオープンスペースの広い床が真ん中にある。もちろんガラス張りの窓も無い。広々と床だけが存在する。そこは食事をしたり，話を楽しんだり，室内での仕事に取り組んだりと，とにかく家族が集まって活動する空間である。

そこからさらに，自分たちのプライベート空間である各自の部屋へと通じる。部屋はオンドルとして床暖房が引かれた北方式空間である。壁は土で丈夫に作られ，防音された完全密室である。現代のマンションもこの例外ではない。玄関のドアを開けると広い居間があり，家族・来客と皆が顔を合わせる。

このようにオープン化された空間を通ってこそプライベートの空間に行くことができる。建築材としては，木と土，木とコンクリートの組み合わせから成っている。

一方日本の住宅は南方式高床と畳で建築されている。間取りにしても狭い通路を通ってまず先にプライベートの空間である自分の部屋へと向う。仕切りも韓国とは違い木と紙からできている。

このような日本の住まい文化は韓国人にはすぐには慣れることができず，最初は誤解を生じる。

玄関，廊下，ふすま，床の間，欄間，神棚，大黒柱，障子，雨戸等々の設備用具の機能的な面での認識ができない。つまり韓国人には日本人の生活礼儀がわからないのである。

また家の中での生活の面も理解できない点が多い。おじさんが風呂上りで七分下着で休憩する場面，出かけるとき化粧はしているけど髪を手入れせずそのまま出て行く場面等は彼らにしては生まれて初めてみる風景であろう。それにまず風呂に入る習慣が違う。毎日シャワーを浴び，汗を流すつもりで風呂に入る。たまに浴槽に入った時にも，垢が浮いているので水を全部流して浴槽をきれいにしないといけない。また週１回位公衆浴場に行き，垢すりをする。親子，兄弟，あるいは他人同士が背中を流し合う。

このように日本と韓国では風呂に入る目的が違うので，日本でのホームステイ先で，たまに日本のお風呂の常識外れのことがおき，問題が生じるのもありえることである。

２．食べる

料理を語る時は専門家たちはまず食物加工方法を問題とする。が，留学生の場合，道具と調理に分けて接近する必要がある。

まず，食事の礼儀。これは道具から考えないと理解しにくい。簡単に説明すると，決まった道具でどうすれば楽に，楽しく口まで運ぶのか。それが食事礼儀であろう。

日本人は何故，茶碗を持って食べるのか。うどんをフルフル音を出しながら吸い込むのか。それらについて疑問を持つ外国人が多い。とくに欧米人には理解が難しいのである。それはまずスプーンがなく，お箸だけがあるからであろう。茶碗を持ち，出来るだけ口の近くまでご飯を運ぶのが一番効率的である。また茶碗の大きさも掌に入るもの，熱伝尊が遅いものでないと困る。味噌汁も，うどんも，飲むようにしないと中々大変である。これらの視点から食事礼儀を説明すればどうだろうか。

そして道具はただ礼儀だけではなく調理の方法も大きく変える。スプーンがある韓国では，主婦が食材を見るとまず〈汁〉を調理する方向に思いが行く。が，日本はどうだろう。お箸だけで食べるため，出来るかぎり汁がない調理方法を考える。従って，外国人の目に入るのは当然，生物，熱物，煮物，煎り物，焼き物，揚げ物，蒸し物である。これらの料理の正しい食べ方を身に付けるのは大変である。

お箸を持ち，口まで上手に運ぶのが食べるより先である。

３．着る

民族はそれぞれ伝統的な着るものを持っている。それには普段着もあるし，礼服もある。そのような伝統的な衣装で，身を包んでこそ本当にその国の文化を理解することになる。

韓国女性の衣装はチマチョゴリ，男性のそれはパジチョゴリである。しかしこれらチマ，パ

ジは上着ではなくスカート，パンツである。このように普通の観念と違って下着を先に言いだすのは何故か。それはチマが主体でチョゴリは付属ものだからである。韓国の服装を作るときは，計測は首筋から踵，肩の幅，肩から手首，胸周りが全部である。チマに付いている帯は両脇まで上げてしっかり胸をしめる。もしも少し長い場合は，上の部分を曲げればうまくいく。

では，チョゴリの長さはどれ位だろうか。首筋から踵までの長さの７分の１，頭まで入れると大体８等分。それでチマチョゴリを着るとみんな８頭身美人になる。

日本の着物はどれも同じであると思う留学生が多い。つまり単，袷，浴衣，作衣の区別がつかない。

ところで第１回目の別府大学と地域の方との浴衣祭りでの触れ合いは，すばらしい思い出となったのは間違いない。留学生たちに日本のいろいろな伝統着物を着せて交流するのが最高の交流である。その国の着物で身を覆ってこそその国の文化をなるほどと思う。

４．ことば

留学生たちが初めに身につける言葉の教育は，３つの段階に分けて考えられる。

① 日常生活の中でよく使う会話の練習

韓国の留学生の中で，「おはようございます」の挨拶を一体何時まで使っていいのか，また「ありがとうございます」と「ありがとうございました」はどこが違うのか，と質問する学生が結構存在する。また，語源はどんな意味があるのかに関心を持つ。

日本人は何も考えず，生活の流れに合わせて使い分けている。が，留学生はこの部分が一番理解できないところである。そのため保育園児に教えている日本語を，最初に留学生に教えるのも良い方法であると思う。

② 母国と違う固有名詞

このような単語は覚えるしか方法がない。物を見て母国の名詞は意識せずそのまま記憶するしかない。絵をもって意味を与える方法である。海外に出て勉強をすると早く上達する理由の一つと言える。

③ 文化，慣習による表現の違い

この分野が一番面白い部分ではないだろうか。それぞれ文化や慣習によって表現が変化する。民族意識の底に何があるのか，なにを大事にするのか，少しはわかる気がするところである。

日本と韓国の例を上げてみよう。

〈磯の香り〉

海辺に行けば海独特の香りがする。韓国では直接〈海の香り〉と表現する。但し，磯釣りの時は同じ。

〈子犬〉

動物の子はそれぞれ固有の呼び方がある。子犬はカンアジ，子牛はソンアジ，ひよこはピョンアリと言う。

〈会いたい〉

〈見たい〉〈会いたい〉の区別があまりない。特に人に会いたいときは同じ感覚であるのだが，普通は見たいという意味の語は〈ポゴシポ〉。

〈そうそう，そそそ〉

〈そう〉の意味では〈クレ〉。が，せいぜい２回まで。３回以上話すと仲間に入れてくれない。

〈海の幸〉

大体似た意味で使う。が，韓国ではもっと直線的な表現をつかう。たとえば〈海の真味〉。

〈気持ちいい〉〈うれしい〉〈おいしい〉〈すずしい〉

最も難しい感情の表現である。韓国語も細かく区別はしている。代表的な単語は〈シウオンハダ〉。熱いお湯に入る時が気持ちいい。風呂上りの冷たいビール一杯飲む時冷たくておいしい。難題が解決してすっきりする。風が吹いて涼しい。これらが全部〈シウオンヘ〉。

〈お酒〉

韓国でも清酒はある。戦前日本のお酒，「正宗」が半島を支配していたので，今日もお酒を正宗としてそのまま韓国式音読みで〈チョンジョン〉と言う。最近は銘柄の名前を言えるようになっている。

〈生け花〉

もっと直接的にお花を挿すという意味の〈コ

ッコジ〉。
〈生鮮〉
　韓国では生魚の意味。〈センソン〉。
〈足を洗う〉
　足を例として取り上げるのは中々見られない。足の代わりに手を活用。〈手を洗う〉。
〈顔が広い〉
　このときは〈足が広い〉。すなわちあちこちよく歩ける，交際がうまいという意味。
〈目の上〉
　目上のひとには両手を使うのが基本生活なので，両手の上に乗せてあげるという意味。〈手の上〉。

「おわりに」

　海外の生活を楽しむためにはその国の文化に慣れるしかないと思う。保育，幼稚園の園児に教える程度の，まったく基本生活の一部分が留学生たちには悩みの種になって，カルチャーショックを受けることになる。アジアの国々からの留学生は，外観は日本人と似ているのだが，民俗文化は違うところが多い。ホームステイなど交流をする際は普通の日常生活で接する必要がある。その中で，もし日本人としては礼儀正しくない生活の一面も，日本の文化に慣れたいあまりの留学生の好意であることを認識し，自分の子供に教えるくらいの愛情を持って説明すべきである。

　交流が進み，時間が経ち，理解できるようになれば，もうすでに立派な日本文化を身につけたといえるであろう。

(参考)

孫　在奉『きものと生の日本文化』2003　チェクサラン　p.45－125
新谷　尚紀『民俗学がわかる事典』2000　日本実業出版社　p.52－53
リフンジョン『民俗生活語辞典』1962　ハンキルサ　p.37，41，45，183，297
韓国文化院　2002,4『韓国文化』集英社　p.1
2002『元日本留学生の意見』日本国際教育協会